【令和２年度】

「新型コロナウイルス感染症まん延下での災害に対する府民意識」

に関するアンケート　リサーチプラン

１　調査の背景と目的

新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）のまん延により、これまで行ってきた自然災害への防災対策にも見直しが求められている。とりわけ、「３密」となる避難所への避難については感染症対策との両立の観点からあらためて見直しを行う必要があり、大阪府では、今年６月に「避難所運営マニュアル作成指針（新型コロナ対応編）」を策定し、市町村や府民への啓発を進めてきた。

本調査では、新型コロナまん延を経験した府民の防災意識の変化と見直しの現状を把握することを目的とし、本調査結果を踏まえ、より効果的な啓発を行う等の防災対策改善につなげていくことを狙いとする。

２　調査（検証）項目

自宅周辺の風水害リスク認識と避難行動・意識の関係性

①自宅周辺の風水害リスクが高いと認識しながら、指定避難所へ避難しない人の傾向

②自宅周辺の風水害リスクが低いと認識しながら、指定避難所へ避難する人の傾向

③自宅周辺の風水害リスクが低く、安全な場所にいるときは避難しなくてもいいことを知っている人の避難行動

３　調査対象

国勢調査結果（平成2７年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、1８歳以上の大阪府民1,000サンプル

４　質問項目

■予備質問　３問

SC１：市町村（SA）

SC２：区（大阪市・堺市のみ）（SA）

SC３：同居家族に、移動に付き添いが必要な人がいるか（SA）

■本質問１４問

Q１　ハザードマップを知っているか（SA）

Q２　自宅周辺の風水害リスクの認識（SA）

Q３　自分が避難する指定避難所を知っているか（SA）

Q４　風水害の危険が高まったとき、指定避難所に避難するか（SA）

Q５　【避難する人】避難する理由（MA）

Q６　【避難しない人】どこに避難するか（SA）

Q７　【避難しない人】避難しない理由（MA）

Q８　【感染リスクが高まるから避難しない人】感染リスクが高まると思う理由（MA）

Q９　自宅の形態（SA）

Q１０　安全な場所にいるときは指定避難所に避難しなくてもいいことを知っているか（SA）

Q１１　【知っている人】何で知ったか（MA）

Q１２　非常持出品を準備しているか（SA）

Q１３　【準備していない人】準備しない理由（MA）

Q１４　【準備している人】新型コロナ対策として追加したものは何か（MA）

５　検証方法

①自宅周辺の風水害リスクが高いと認識しながら、指定避難所へ避難しない人の傾向

Q２（リスク高）×　Q６・Q７

②自宅周辺の風水害リスクが低いと認識しながら、指定避難所へ避難する人の傾向

Q２（リスク低）×　Q５

③自宅周辺の風水害リスクが低く、安全な場所にいるときは避難しなくてもいいことを知っている人の避難行動

Q２（リスク低）×　Q10（知っている）×　Q４